

## 編輯室の内外

▽銷夏の手段を考へねばならぬ季節に爲つたが、此歳は恰度夏期講習會を開くべき年なので、銷夏どころではない。講習會場は社會局大會議室に通過して一年中の汗を掛出するやうに出来てゐる。海や山で汗を出すのも會場で出すのも同じこととは、誰も感じないであらうが、編輯子はそう勘定して此夏を送らねばならぬ、之も路政の爲と諦めるより外はない。

▽講師は何れも若い人と言ふ注文もあつたが、毎回頭振れが一定してゐては面白くないと言ふ注文も出て、夫れでは東大法科の大講堂で第一回の講習會を催したときと同じやうに、大家を集めやうぢやないかと言ふことに爲つて講師を選擧した。従つて講演の内容は面目を新たにするであらう。多數の聽講を得ば結構。

▽本會創立當初からの理事は北海道廳長官

編輯室の内外

の佐上信一さん、北海道農村救済策として拓殖費豫算の追加を策し、編輯室を訪れて「オイ内地の道路の改良をグズ／＼してゐると北海道から改良道路を放送するぞ」と偉い權幕だつた、併し夫れは豫算が成立してから承ることとするが、モーター一つ本會の幹事であつた伊藤武彦氏、生れ故郷の岐阜縣知事として大に道路を改良し、先輩や後輩の縣民の爲に策さむとしてゐたが、這般の長官更迭で、滋賀縣に轉任を命ぜられ折角の計畫も水泡に歸した、無理解な人事と言つて可い。モーター一つ之も本會の幹事であつた内務省河川課長の岡田文秀氏、地方長官と爲れば積年研究した理想的な河川行政を縣治の上に顯はすであらうと言ひ囃されてゐたが、知事の管理する河川らしいもの一つもない千葉縣に榮轉して、折角の抱負も行ふに由ないと言ふ有様、世の中のことはいづく行かぬ。

▽地方長官の更迭で榮轉した人、左邊乃至

敵首された人、失意に得意其の心境はさまざまであらうが、在官中我が路政に盡して呉れた其の功績に敬意を表すると同時に、今の失意得意が逆轉するのときを待たれたい。

▽路政僧から、「六十二議會を覗いて」と言ふ題目で臨時議會の議事を批評した原稿を寄せられたが、編輯の都合で來月號に廻した。不悪。

本誌定價 五十錢  
一ヶ年分 金六圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内  
發行所 社團 道路改良會  
東京府豊多摩郡代々幡町幡ヶ谷三五六  
發行兼 編輯者 小島 效  
東京市小石川區諏訪町五六  
印刷所 常磐印刷所  
印刷者 堀江關武